

教育の深さこそが 「未来」を決定づける

岩手県立
花巻北高等学校 校長

鈴木 晃彦

さん 創価大学文学部卒業

「学生第一の大学」を掲げる創価大学は、教員採用試験で毎年約二〇〇名以上、これまでのべ六三〇〇名以上の合格者を輩出しています。二〇〇八年には、教職大学院を開設。人間教育に重点を置いた教員養成プログラムは内外から高い評価を受けています。

「岩手が誇れるのは豊富な人材と美しい自然です。『教育立県いわて』を実現することが、私の生涯の夢であり、使命であると思っています」

県立花巻北高等学校の校長を務める鈴木晃彦さんはこう語る。花巻市は、国際的に知られる教育者・新渡戸稲造や作家・宮沢賢治を生んだ文化の香り高い街である。



すずき・てるひこ／一九五四年岩手県生まれ。県立盛岡第三高等学校卒業後、創価大学文学部英文学科に入学（二期生）。七七年岩手県教員採用試験に合格し、盛岡第一高等学校に英語科の教員として赴任。以後、進路指導に手腕を発揮し、二〇〇六年、盛岡一高から一七名の東大合格者を出し、全国的にも注目される存在になった。一年の東日本大震災発生時は大船渡高校校長として、生徒の激励と地域支援にあたる。二年から現職。

鈴木さんは、県北部の岩手郡葛巻町に生まれ、県立盛岡第三高等学校を卒業後、創価大学に入学。一九七七年、教員試験に合格し盛岡第一高等学校に英語科の教員として赴任。以後、着任した先々で、「教育立県」と生徒の夢を実現するため進路指導に邁進。盛岡一高に二度目に赴任した際、東大現役合格一七名を出し、一躍、名前が知られるようになり、講演依頼が全国から殺到した。

「私の話はちよっと切り口が違つとよく言われるんですが、進路指導は生活指導も含めた人づくり、人間教育だと思ふんです。夢をもって、それをおこなえようと努力できるのは人間だけ。単なる立身出世じゃない。まず自分の身を立てることはもちろんのこととして、その先に自分の命を他人のために使うこと、それが一人ひとりの使命をまっとうする—Noblesse Obligeということだといった話をします。これらは全部、創価大で学ん

小高い丘の上にある花巻北高からは花巻市の街並みを一望のもとにおさめることができ遠くには北上高地最高峰早池峰山の雄姿も望める

だことです」
学生時代は、バイトをして、神田の古本屋で英語の原書を読み、寮で読むのが楽しみだったという鈴木さん。入学当初は東北弁を気にして寡黙になりがちだったが、そんな鈴木さんに、友人たちは気さくに声をかけてくれた。

「自分という存在を認めてもらったというか、それが自信につながったように思います。ですから今は、在学中に創立者や教授、友人たちから受けた数々の恩を返しているだけ。生徒一人ひとりに声をかけて、あなたのことをちゃんと見てやるよという気持ちを伝えるように心がけています」

東日本大震災発生当時は、県立大船渡高校の校長職にあった。大船渡高校では生徒の四〇％が被災、三人が亡くなった。ライフラインの壊滅状態が続くなか、生徒のみならず、学校に避難してきた地域住民の支援活動にも取り組む。

「よく『生きる力』と言われるますが、震災後は、『生き抜く力』『生きさる力』が必要だと考えるようになりました。生涯、子どもたちのために尽くす仕事を続けていきたいと思ひます」

教育とは子どもたちの幸福に奉仕する事であるとした創価教育の創始者・牧口常三郎の理念は、鈴木さんの中で熱い決意となつて生きています。



創価大学の創立者・池田大作先生は、平和や人権、教育などをテーマにトインビー博士やアンドレ・マルロー氏、ノーベル賞受賞者のボーリング博士、ローマクラブのベッチェイ博士など、世界の学識者との対話を半世紀以上続けている。1999年には国立フィリピン大学のアブエバ

元総長夫妻と会談（写真）。これまで5度の会談を行い親交を深めてきた。1998年の会談では、教育の目的について、総長が「自分の中にある最高のものを引き出す聖業」と語り、創立者も「英語の教育（エデュケーション）の原義も引き出すことですね」と応じて、共鳴、論及した。

